2009年7月1日発行（奇数月1日発行）通巻第5号

# あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.05
2009
文月・葉月

特集

## 道院長研修会の新しい取り組み

# 道院長研修会の新しい取り組み

**5月9、10日の1次を皮切りに、5月16、17日の2次、6月6、7日の4次と、本山で道院長研修会が行われた。新型インフルエンザの感染拡大を防ぐため、5月30、31日の3次のみ7月に延期となったが、それぞれに450～600人の道院長が参加。事業方針を共有し、全国の道院長と本山の関係をより強固なものとする内容であった。**

## キャリア別・選択プログラムの導入、指導者のニーズに応える

最初に、田村明宗務局長から研修会の主旨について説明があった。少林寺拳法グループが機構改革・風土改革の途上にあることへの理解を求め、本山と道院長との連携を強めること。そして、少林寺拳法の価値と信頼性の向上を図ることが目的となる。そのため、研修会はより指導者のニーズに応えるべく、キャリア別・選択プログラムを導入。更に、講義と技術修練を約1時間ずつ交互に組み合わせ、受講者が集中しやすい配慮がなされた。

講義はキャリア別に行われた。講義Ⅰは「事業方針、事業計画について」、講義Ⅱは「布教活動について」。

浦田武尚代表は、「最初から100パーセントできる道院長はいません。指導者になって、判断力、指導力を養い、地域に密着した活動を行うことで社会における信頼を高め、生きざまを背中で語れるようになってくる。〝道院長は買ってでもせよ〟、それほどやりがいがあり、勉強になるということを、ぜひ門下生に伝えてください」と、後継道院長育成を力強く呼びかけた。

技術修練は、「法形」「健康コース」「運用法」「少年部指導」の四つから二つを選択。「健康コース」は、来年度施行予定のコース制の中から、高齢者を想定した修練方法を紹介。呼吸法を重視した内容であった。また、少年部指導委員会による「少年部指導」のコースは、子供の興味を引き出す、工夫を凝らした指導方法が紹介された。

運用法

健康コース

法形

少年部指導

担当／山下真由美

浦田武尚代表

大西要副代表

田村明宗務局長

# ディスカッションタイムの充実 理解を深め、連携を強化する

講義Ⅲ「運営・指導のあり方について」では、1グループ10人ほどに分かれて班別討議を行った。それぞれの道院で行っている運営・指導上の工夫、注意点が話し合われた。地域性の違いはあるものの、情報交換は大いに刺激になったようだ。

また、キャリア別・選択プログラムに加え、新しい試みとして、総裁とのディスカッションの時間が設けられていた。布教活動、人づくりの本質から法令順守まで、質問に対して総裁は一つ一つ丁寧に答えていた。「不安がなくなった」という感想が聞かれた。

ほかに講義Ⅳ「僧階資格別講義」では、金剛禅教義に関する知識を深めた。

このように非常にスケジュールの密な日程であったが、「本山との距離が縮まった」「こうした研修会の形をこれからも継続してほしい」と、新しい取り組みは道院長に好評であった。

2009年、一人ひとりの道院長の取り組みによって、金剛禅運動の更なる活性化と教団の飛躍に期待したい。

**開祖忌法要**

## 開祖を偲び、修行の目的を再確認する

5月10日、金剛禅総本山少林寺本堂で開祖忌法要が、浦田武尚代表を導師として厳粛な雰囲気の下、執り行われました。

当日は、道院長研修会1次の開催期間中ということもあり、本山の役員・職員だけでなく、研修会を受講されている道院長を含めたおよそ600人が参列され、ありし日の開祖に思いを馳せ、その遺徳を偲びました。

導師献香、教典唱和、表白文奉読と法要が進み、その後、参列者全員が献香を行いましたが、献香時に祭壇に置かれた開祖の写真を見つめ、香を薫じる参列者の表情からは、開祖への懐かしさや感謝の念といった、さまざまな思いが伺えました。

また、開祖忌法要後には大雁塔顕彰施設にて、2006年11月に逝去された故・三崎敏夫少法師正範士七段の遺品が収蔵され、引き続いて物故指導者顕彰法要がしめやかに執り行われました。

毎年5月には、本山だけでなく、全国の道院でも開祖忌法要が行われており、今年で29回目の法要となります。この法要を通じて開祖の志に触れることにより、門信徒一人ひとりにとっては修行の目的を再確認するきっかけに、道院長にとっては「人づくり」への決意を新たにするきっかけになればと思います。

（小林博紀）

### ◇各地の開祖忌法要◇

**東京別院**

5月21日、東京別院錬成道場で開祖忌法要が、秋吉好美東京別院別院長を導師とし執り行われました。第六小教区長、近隣の道院長をお迎えし、職員、東京大塚道院、幸齢者教室、JSSクラブの方が参列。今年は、導師法話に続いて、長年にわたり金剛禅運動に邁進しておられる道院長のお二人に、開祖にまつわるエピソードをお話しいただきました。石村政雄目白道院道院長からは「指導者に厳しく、拳士には優しかった開祖」、藤田守豊島道院道院長からは「道院名を聞いてすぐ道院長名を答えた開祖、人を引き込む話術」など、非常に興味深い話をお聞きすることができました。お話しからは、開祖の情熱が、今のお二人の指導者としての使命・責任を全うする原動力になっていることが伺えました。

式典終了後は2F研修ホールに会場を移し、懇親会が行われました。懇親会ではDVD「少林寺拳法解体新書」を上映し、全員で開祖の志を再確認しました。

（山下真由美）

**福井県教区**

5月23日、福井清明道院専有道場で、玉村好福井県教区長を導師として、開祖忌法要が厳かな雰囲気の中、執り行われました。当日は、福井県内の17道院より、道院長および幹部拳士18人が出席しました。

玉村福井県教区長の法話では、開祖忌の意味、開祖の願いなど、参列者の心に響き渡る話がありました。1時間弱という短い時間ではありましたが、中身の濃い、非常に充実した時間を持つことができました。参列者の感想としては一同、「明日への金剛禅布教への意欲を強める有意義な一日となった」という声が多く、今後の福井県における「金剛禅への布教活動」が楽しみになる、そういった予感を感じさせた一日となりました。

（渡辺竜彦）

**金剛禅総本山少林寺**

## 高松研修所落慶

5月29日、香川県高松市中野町に金剛禅総本山少林寺高松研修所が完成し、落慶法要、祝賀会が行われました。

佐伯勉松平公益会理事長、真鍋雅彦富士建設代表取締役社長、宗由貴少林寺拳法グループ総裁、新井庸弘財団法人少林寺拳法連盟会長、山崎博通専門学校禅林学園校長、浦田武尚代表、他役員、県内理事長、教区長、小教区長など約30人が参加しました。

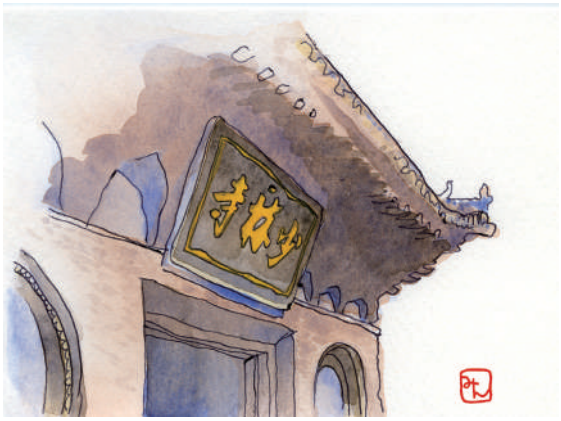
高松研修所は、1956年に松平頼明松平公益会元会長（元社団法人日本少林寺拳法連盟副総裁、元全日本高等学校少林寺拳法連盟会長、元全日本少林寺拳法連盟副会長）より、青少年育成のためにと土地を無償提供いただき、高松別院、後に当別院廃止後は、高松中央道院、高松東道院としての活動を経て、この度、高松研修所として建立されました。

研修所は、県都高松市の金剛禅布教の活動拠点として①県教区、小教区活動として研修会、講習会、会合の実施、②地方の実施機関としての道院運営（現行2道院）、③各種会合などが行えることを目的に積極的に活用される予定です。（横関智也）

投稿大募集　〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5　東京別院 広報誌担当宛　TEL.03-5961-1400　FAX.03-5961-1401
e-mail：aun@shorinjikempo.or.jp　※投稿記事は400字を目安とし、名前、所属、連絡先を忘れずにご記入ください。
なお、誌面のつごう上、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。

文／今井　健

# 禅源を樹表する達磨大師の碑



開祖は教範に達磨大師にまつわる碑刻石「蕭梁 達磨大師碑」の拓本を掲げておられる。この碑は嵩山少林寺の大雄寶殿の前庭に今もある。

有名な達磨と梁の武帝の問答以後、武帝は後悔し達磨の徳風を追慕し自ら文を製し顕彰の碑を建てたのであった。しかし数百年の歳月を経て碑の刻字が摩滅してしまったため、元の時代に再び建てられたのがこの碑である。

碑文の冒頭には１３３９年（至元五）、少林寺長老の息庵がまさに原碑が摩滅するところを惜しみ、禅源を樹表するため再び碑を建立しようと企画し、元朝廷に遺いの僧徒を走らせ、その実現に努めたことが記されている。

少林寺長老の息庵とは、前号で紹介した日本僧古源邵元の師僧である息庵義譲のことである。そのとき、邵元は書記であったから、息庵の下に朝廷への請願文を認めたのは邵元であったとも考えられよう。

結局、朝廷勅許の下にこの碑が建立されたのは息庵没後の、１３４７年（至正七）のことであった。

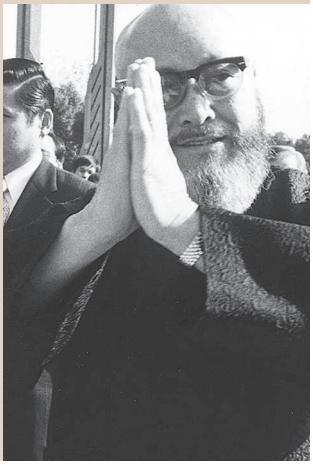
ところでこの「蕭梁達磨大師」の裏面に「初祖菩提達磨大師来往実跡之記」という碑文があることはあまり知られていない。建立は「蕭梁達磨大師碑」と同じく１３４７年で、時の住持 淳拙文才が編集したものである。今日の達磨大師の伝記は「寶林傳」や「景徳傳燈録」によるところが大きいが、この碑においてもその二つの伝記を混合し編集していることがわかる。既に元の時代には達磨大師の伝記が今日と同じように謂われていたことを知るのである。

開祖が入山された昭和初期の少林寺の建物は朽廃し宗門は衰退していた。しかし武帝の時代から現代までの中間期にあたる元という時代に中興されたこれら達磨大師の碑は、「禅源を樹表する」ものとして更に数百年屹立し続け開祖の目に留まったのである。

**開祖語録ダイジェスト**

1979年8月
夏季高校生合宿での法話

# 裏切らない人間 与えて喜ぶ生き方



状況や条件によって、コロコロ変わる人間がいますね。そういう奴は信用できないですね。

世の中で役に立つ人間になろうと思ったら、信頼される人間になりなさい。信頼される人間とは、

・言ったことと、やることが違わない。
・約束したことは絶対守る。
・少々損をしても、辛い目にあっても、言ったことを変えない。つまり、裏切らない。

例えば先輩の世話で会社に入れた。つまり就職できた。

これ、恩ですね。恩には何かで応える。報いる。そういう誠意が人間には必要です。

また、捧げる。尽くす。与えて、喜ぶ。

そういう生き方を、君たちに知ってもらいたい。

私は70年の人生において、40年以上中国との関係の中で生きてきた。そして昔も今も私は中国・中国人から絶大な信頼があり、それが少林寺拳法の発展を支えてくれたのです。

私は日本が勝っていた戦争中も、日本が敗れてからの戦後も、私は全然変わっていない。裏切らない人間。だから、あの男の言うことなら間違いない、と信頼されている。

## 僧階昇任者

権中導師

■2009年4月1日付

渡辺 智美（札幌あいの里道院）
松田 武（埼玉中部道院）
堀江 誠（埼玉中部道院）
久保 敦志（市原道院）
神崎 章（市原道院）
宮川 勉（市原道院）
白井 秀明（東京千代田道院）
倉持 好夫（市原有秋道院）
武谷 洋介（東京東小岩道院）
西村 昌彦（中野西道院）
瀬間 直美（江東砂町道院）
大内 邦浩（下高井戸南道院）
長谷川 彰（練馬旭丘道院）
小田 悦夫（横浜霊峰道院）
内藤 正智（川崎柿生道院）
室伏 江利子（報徳桜井道院）
平田 光明（東戸塚道院）
北野 英雄（相模大野道院）
竹田 裕紀（柏崎道院）
中澤 信幸（佐久平南道院）
伊藤 公雄（岐阜中央道院）
加地 真樹生（岐阜可児道院）
有本 憲生（岐阜可児道院）
岡 賢一郎（沼津愛鷹道院）
大塚 一乗（南伊豆道院）
土屋 真人（伊豆長岡道院）
山下 健治（浜松可美道院）
中村 孝之（静岡三島道院）
河合 竜司（静岡城北道院）
東條 智（愛知高上道院）
北村 誠（尾張旭道院）
渡辺 儀規（名古屋山田道院）
小林 篤（三重嬉野道院）
佐藤 睦雅（四日市僧伽道院）
増田 枡郎（四日市桜道院）
西村 忠則（四日市富田道院）
永淵 貴人（京都鴨川道院）
岸本 大介（伏見桃山道院）
岩村 武（大阪藤井寺道院）
石本 綱國（大阪白鷺道院）
池田 春二（堺八下道院）
山口 昌男（寝屋川西南道院）
五島 雅樹（柏原旭ケ丘道院）
前川 明信（大阪茨木道院）
柿本 敦司（高槻南道院）
佐野 弘美（富士北道院）
出島 透（神戸港島道院）
杉田 隆久（倉敷東道院）
丸山 雅志（岡山玉原道院）
兼氏 増次郎（宇部小串道院）
中川 祥一（丸亀飯野道院）
岡尾 浩二（松山武南道院）
山内 康之（高知港道院）
熊谷 弘（大牟田西道院）
林 忠億（宮崎北道院）
西田 薫（鹿児島種子島道院）

## お布施

| | | | |
|---|---|---|---|
| ▷名誉本山委員　村上 一 | 5,000円 | ▷函館亀田道院　手坂 世志雄 | 30,000円 |
| ▷一宮中部道院　北川 博康 | 10,000円 | ▷明石道院　今井 明雄 | 45,000円 |
| ▷小坂 久美子 | 30,000円 | ▷高松中央道院　田村 道明 | 50,000円 |
| ▷香川県教区・香川県少林寺拳法連盟 | 30,000円 | ▷高松東道院　久保 義則 | 50,000円 |
| ▷財団法人松平公益会 | 30,000円 | ▷三崎 光子 | 50,000円 |

## 僧階について

僧階は、金剛禅の布教者になることを志して、僧籍に編入された方に与えられる資格です。

今生きている自分の幸福を本当に大切にするが、半分は他人の幸福を考えて行動できる人間を一人でも多く育て、もって社会の平和と発展に貢献すること、これが少林寺拳法の目指す人づくりの考え方です。

その第一歩が、「生かされていること」を自覚することです。わたしたちは、自分の意思で生きているようでありながら、実は大いなる力、すなわちダーマによって、「生かされていること」を自覚することから始まるのです。

この自覚が芽生えると、おのずと感謝の気持ちを持つようになります。親に感謝し、師に感謝し、他人に感謝し、そして自然の恩恵を受けていることに感謝するようになります。理屈ではなく、心から感謝するようになるのです。その感謝の念を愛情と行動によって表現するようになります。これが信条で唱和する「報恩の誠を尽くす」ことなのです。

非常に崇高な言葉ではありますが、まずは身の回りの小さなこと、簡単なことから始めればよいのです。そして、毎日毎日こつこつと善行を積み重ねて生きていくことが、報恩の誠を尽くすことなのです。

このように、真の慈悲心と勇気と行動力を持った人間、そして、周囲の人や環境、社会と調和し、貢献できる人間をつくるために、金剛禅運動を展開していく指導者の資格が僧階です。

どうか、一人でも多くの拳士が僧籍に編入され、金剛禅の布教者としての自覚と誇りを持って、金剛禅を広めていきませんか！

| 資　格 | 僧階香資 | 出願締め切り |
|---|---|---|
| 少導師（僧籍編入） | 6,000 円 | 2月28日、 6月30日、 10月31日 |
| 権中導師 | 7,000 円 | 補任日 |
| 権大導師 | 10,000 円 | 4月1日、 8月1日、 12月1日 |

### パソコンでの事務手続き推進について

現在、パソコンで事務手続きをされている所属は全国で約1780所属（65%）です。パソコン利用をご検討中の所属長の皆様で、ご不明な点やお困りのことがありましたら、パソコン利用地区推進委員、もしくは業務部担当までお問い合わせください。

### 沖縄県のパソコン利用率が100%になりました！

6月1日付で、沖縄県の全所属がパソコン利用となりました。沖縄県の所属長の皆様、ありがとうございました。

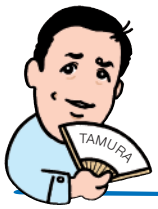
**【お問い合わせ】**
**業務部 担当／国富、吉良**
**電子メール support@shorinjikempo.or.jp**

**７月の本山行事**

**4日（土）～5日（日）** 少年部指導講習会
**11日（土）～12日（日）** 道院長研修会３次
**16日（木）～18日（土）** 道院長資格認定研修会
**19日（日）** 定例昇格考試・帰山

**８月の本山行事**

**2日（日）** 帰山
**23日（日）** 帰山




宗務局長　田村 明

# 清風

## vol.5 秘密結社

中国には秘密結社が多かった。以前、開祖が「青幇（チンパン）、紅幇（ホンパン）のような組織をつくりたい」というのを聞いたことがある。青幇、紅幇とは中国の秘密結社の名前である。明、清の時代はこのような秘密結社がたくさんあった。この秘密結社の社会的機能は、一家、兄弟という強い仲間意識を通して実現される、広域的な相互扶助ネットワークである。ただし、日本と中国の社会的環境の違いにより日本にはなじまなかったのか、発生はしなかったようである。日本は地域社会が単位であり、中国は流動性の高い人のつながりが単位であるからだろう。

開祖が中国で触れた宗教的秘密結社、それはどこでも仲間同志が助け合えることができる社会、そしてその思いを日本に持ち帰った。このような「人のネットワーク」の組織をつくりたかったのであろう。現在の少林寺拳法の拳士間のネットワークは、形の上では構築されているといってもよいだろう。中国の秘密結社のような強烈な仲間意識にはとうてい及ばないが、友好的な仲間づくりとしては成功しているのではないだろうか。

# 一期一笑（いちごいちえ）

## 左手で箸

左手でも箸（はし）が使えるようにと訓練を始めてすでに20数年。今では両手で自由に操れる。

それでも最初のころはやはり苦戦した。慣れない左手での操作という以上に、右手の「出しゃばり」に手を焼いた。不器用な左手をかばおうとしてやたら出しゃばる右手。持った茶碗（ちゃわん）を無意識に口に近づけようとする。「利き手」である右手で箸を使っていたときには気づかなかった食事中の、茶碗を持つ左手が担う役割の重要性というものを知った。左手は「主役」である右手が活躍しやすいように最高のサポートをしている。主役を立て、脇役に徹し、決して出しゃばることはない。訓練のスタートは、まず右手の「出しゃばり」に釘（くぎ）を刺すことだった。稽古（けいこ）のときも、左手で技を掛ける際に気をつけるべきは、右手の「いたずら」だということに気づいた。

人との関（かか）わりに置き換えた。周囲に対して、常に「右手」でいようとする自分はなかったか。我々指導者は立場上「右手」でいることが多い。が、それに馴（な）れっこになってはいけない。所変われば立場も変わる。

器用さだけを前に出す指導者にはならぬよう常に心がけたい。

（群馬前橋道院・江原謙治）

イラスト／大原由軌子

**投稿大募集**　道場や拳士のちょっといい話を募集しています。
※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛　TEL.03-5961-1400　FAX.03-5961-1401
e-mail：aun@shorinjikempo.or.jp

# 本山見える課

事務局紹介のコーナー

**File.5 業務部業務２課 昇格係・筆耕係**（2009.5月現在）

後列）吉田理恵（よしだりえ）、大西香代（おおにしかよ）、洲脇信子（すわきのぶこ）、太田千鶴子（おおたちづこ）
前列）課長補佐 中山享世（なかやまたかよ）、係長 仙頭祥仁（せんとうよしひと）、入江雅子（いりえまさこ）

昇格係・筆耕係は、修行の一環である昇級、昇格、僧階の事務手続きをサポートさせていただいております。

修行の証しであります会員証・合格証書・允可状（いんか）・辞令を、一日も早くお手もとにお届けしたいと業務に励んでおります。最近は60・70代の特別昇格受験者が増えており、そのバイタリティ、挑戦する心に大いに刺激を受けるとともに、努力を重ねて昇格された方の喜びの声に、パワーを頂いております。私たちも果敢に業務改善に取り組んでまいりますので、今後とも、よろしくお願いいたします。

# 押受突(外)

*Nio Ken, Oshi uke zuki(soto)*

## 宗門の行としての少林寺拳法

## 仁王拳(におうけん)　押受突(おしうけづき)(外(そと))

効果的な受けとは、相手の攻撃を無効にすることである。振突(ふりづき)に対する外押受(そとおしうけ)は、手刀、腕刀を張って手首を生かし、相手の寸脈を外へ押し切ることが基本である。また、攻撃に対し、相手の懐に飛び込む如(ごと)く体を捌(さば)くには、相手を飲み込むくらいの気迫が必要である。それが我の勢に表れ、相手の虚を導くのである。「虎穴に入らずんば虎児を得ず」だ。

撮影／近森千展　文／飯野貴嗣　演武者／守者：川島一浩　正範士七段　攻者：飯野貴嗣　大拳士六段

**表紙**　**金本孔俊(かねもとよしとし)**／8月末、タルキートナ付近で突然大雨が降り出した。約1時間後、美しい光景に変化した。**【プロフィール】**1954(昭和29)年、兵庫県生まれ。88年、フォトスタジオ「ゴールド」設立。94(平成6)年からアラスカでオーロラを撮影し、ライフワークとして情熱を注ぐ。写真集に『神秘アラスカ』(京都書院)『ALASKA』(青幻舎)、『聖夜　ALASKA-Holy,Night 』(青幻舎)がある。神戸六甲道院、正拳士四段。http://www.studio-gold.com

**編集後記**▶世界同時不況の波に、追い打ちをかけるようなメキシコ発、新型インフルエンザの急速な伝播(でんぱ)▶ウイルスの特徴は、高齢者の罹患(りかん)率は低く体力のある若者に多いが、予想された鳥インフルエンザほどではない▶第三次道院長研修会も延期となったが、不幸中の幸いと考え元気な再会を期待する▶開祖の志、「世の中に役立つ人づくり」の金剛禅運動を、多度津発「宗道臣ウイルス」として、よい意味で地球規模に老若男女を問わず伝播させたい。　(あ)

発 行 人 ：浦田武尚　発 行 所 ：金剛禅総本山少林寺　〒764-8511　香川県仲多度郡多度津町本通３－１－48　☎0877-33-1010　http://www.shorinjikempo.or.jp
編 集 人 ：秋吉好美　企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院　〒170-0004　東京都豊島区北大塚２－17－５　☎03-5961-1400　e-mail aun@shorinjikempo.or.jp
金剛禅総本山少林寺広報誌「あ・うん」　2009年７月１日発行(奇数月1日発行)通巻第５号　　印刷・製本：㈱ブル・ドック
※本誌の発行に掛かる費用には、SHORINJI KEMPO UNITYによるライセンス事業の収益金が活用されています。

http://www.shorinjikempo.or.jp/aun/index.htmlでは、誌面に掲載仕切れなかった記事、写真のほか、動画などもご覧いただけます。

SHORINJIKEMPO